

# 東三河振興ビジョンについて

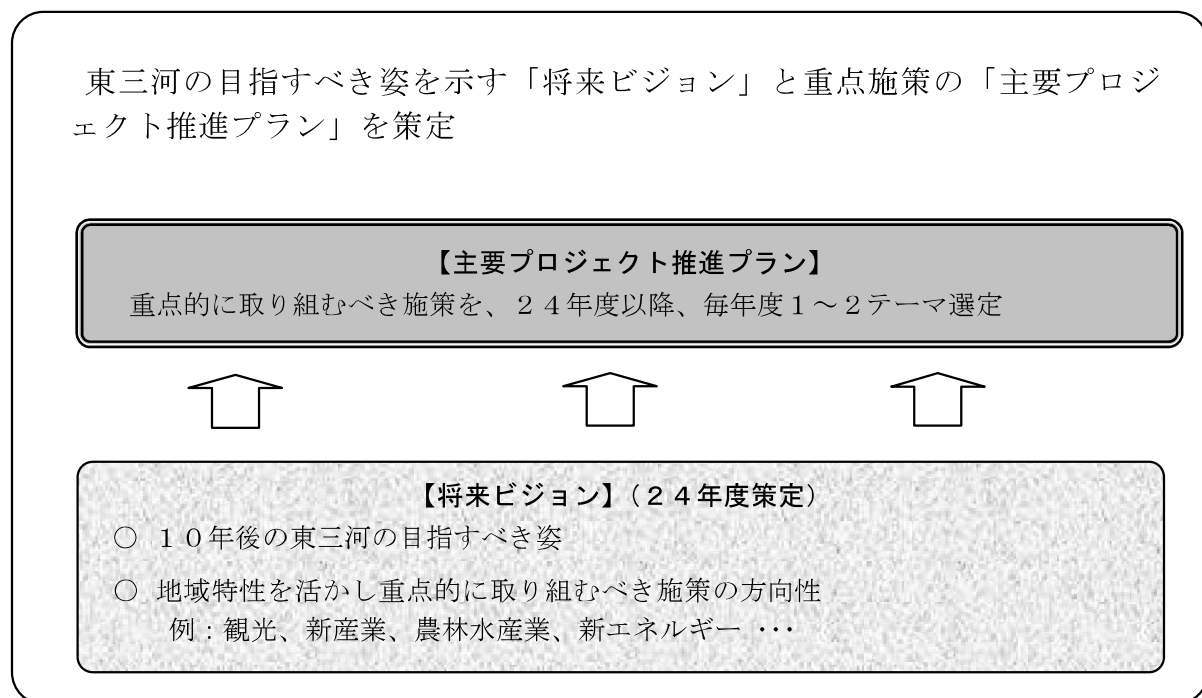
## 1 概要

### (1) 将来ビジョン

観光、新産業、農林水産業、新エネルギーなど、東三河の持つ地域特性を活かし重点的に取り組むべき施策の方向性を示しながら、東三河の目指すべき姿を明らかにする「将来ビジョン」を24年度に策定

### (2) 主要プロジェクト推進プラン

「将来ビジョン」に掲げた重点的に取り組むべき施策の中から、毎年度、テーマを選定し、推進プランを策定するとともに先導的事業を実施（24年度 1テーマ）

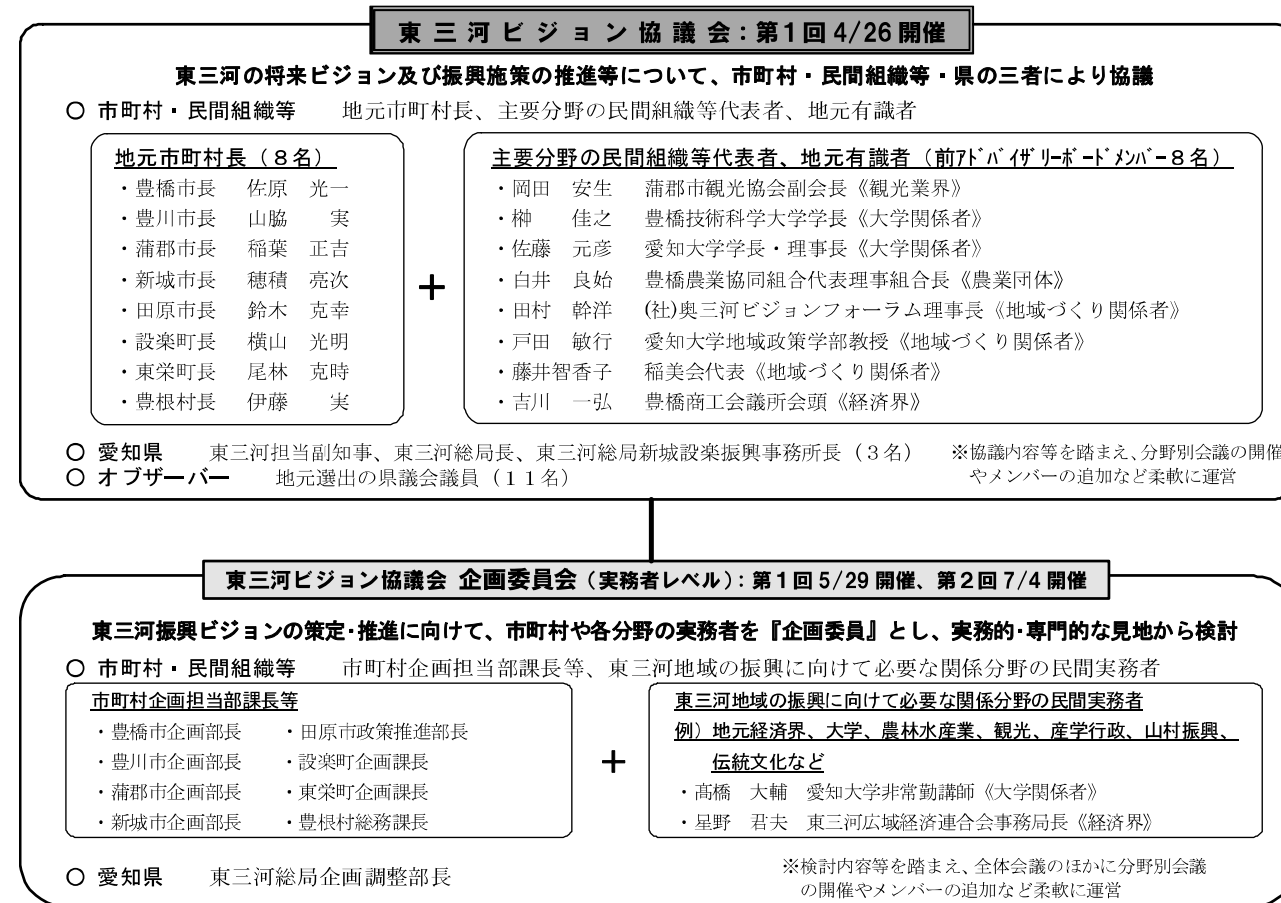


## (3) スケジュール骨子

項目	検討スケジュール
将来ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 7月（骨子とりまとめ）</li> <li>● 11月（中間とりまとめ）→パブリックコメント</li> <li>● 25年2月（最終案とりまとめ）</li> </ul>
主要プロジェクト推進プラン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 5月（24年度テーマ選定）→先導的事業の実施</li> <li>● 7月（骨子とりまとめ）</li> <li>● 11月（中間とりまとめ）</li> <li>● 25年2月（最終案とりまとめ、25年度テーマ選定）</li> </ul>

※企画委員会は、検討の進捗等にあわせて随時開催

## 2 検討体制



		機 会	脅 威
		<p>【アジアなどの経済成長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケットの拡大</li> <li>・インバウンドの拡大</li> </ul> <p>【整備が進展する広域交通網】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新東名高速道路の整備（新城 IC が豊田 IC から 30 分圏内）</li> <li>・三遠南信自動車道の整備（奥三河からの通勤圏・交流圏の拡大）</li> <li>・リニア中央新幹線の進展・東海道新幹線の運行変化</li> </ul> <p>【情報通信社会の深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域からでも可能となった情報発信・ソーシャルメディアの普及</li> <li>・高度化・多様化する携帯情報端末</li> </ul> <p>【意識の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題・エネルギー問題への関心の高まり</li> <li>・防災意識の高まり</li> <li>・ライフスタイルの多様化</li> </ul>	<p>【少子高齢社会の進展】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本格化する人口減少社会（今後都市地域でも急速に問題化）</li> <li>・超高齢社会の到来</li> <li>・国内マーケットの縮小</li> <li>・財政基盤の弱体化</li> </ul> <p>【産業構造の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外における地域間競争の激化</li> <li>・世界最適生産の拡大</li> <li>・モノづくり産業の海外流出の拡大（研究開発機能・マザー工場機能）</li> <li>・次世代自動車へのシフトによる産業構造の変化</li> <li>・エネルギー供給への不安</li> </ul>
強 み	<p>【地理的優位性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三大都市圏に近接（マーケットへの近接性・輸入拠点の可能性）</li> <li>・産業集積地域である西三河・遠州に近接（ものづくり産業への近接性）</li> <li>・臨海地域等に保有する広大な産業用地</li> <li>・海外誘客のゴールデンルート・昇龍道上に位置</li> <li>・三河港に加え、名古屋港・中部国際空港を始めとする三大都市圏の交通インフラも活用可能</li> </ul> <p>【多様な地域資源】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花祭など特色ある伝統文化</li> <li>・温泉、海岸、自然、花、歴史など、多様な観光資源（エコ・グリーン・ブルー・ヘルスツーリズム）</li> <li>・豊川いなり寿司、豊橋カレーうどんなど各地で展開される食プロジェクト</li> </ul> <p>【グレーターナゴヤの一翼を担う地域産業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色あるオンリーワン企業の立地（健康長寿・加工技術など）</li> <li>・高付加価値型の農業の展開</li> </ul> <p>【広域連携体制の存在】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東三河・三遠南信地域における各層にわたる広域連携体制</li> </ul>	<p>地域づくりの視点・基本課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■アジアの活力・広域交通網の進展を観光振興に活かす⇒<b>誇り</b></li> <li>■アジアの活力・広域交通網の進展を産業振興に活かす⇒<b>活力</b></li> <li>■多様な地域資源を豊かなライフスタイルの実践に活かす⇒<b>希望</b></li> </ul>	<p>地域づくりの視点・基本課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■社会経済情勢の変化への対応力の強化⇒<b>活力</b></li> <li>■少子高齢社会を広域連携で支えあう⇒<b>希望</b></li> </ul>
	弱 み	<p>【地域イメージの弱さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消極的・バラバラに行われている情報発信</li> <li>・絞り込めていない地域の魅力</li> </ul> <p>【都市機能の不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業支援機能、教育機関、都市の賑わいの脆弱性</li> </ul> <p>【十分とはいえない地域内交通環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨海工業地帯・三河港と東名高速道路間における脆弱な道路アクセス</li> <li>・廃止が懸念される山間地域等のバス・西尾蒲郡線・伊勢湾フェリー</li> </ul> <p>【自然災害リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模震災・津波への危惧</li> <li>・頻発する豪雨・渇水</li> </ul> <p>【深刻な問題を抱える山間地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模高齢化集落、医師不足、買い物難民への危惧</li> <li>・公共交通の確保問題</li> <li>・管理が行き届かない森林、鳥獣被害の拡大</li> </ul>	<p>地域づくりの視点・基本課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■情報通信社会の深化を地域プロモーションに活かす⇒<b>誇り</b></li> <li>■広域交通網へのアクセス改善⇒<b>活力</b></li> <li>■防災意識の高まりを防災・減災につなげる⇒<b>希望</b></li> </ul>

＜目指すべき 10 年後の将来像＞

- 誇り** 「穂の国」の魅力が輝く、誇りある地域
- 活力** 地域間競争に打ち勝つ、力強い産業が展開する地域
- 希望** 誰もが希望をもって活動し、自分らしさが実現できる地域

## 平成 24 年度 第 1 回東三河ビジョン協議会 議事概要（未定稿）

## ○豊橋市長

- ・ 広域連合で取り組めることはたくさんあり、東三河県庁がそこに入ってもいい。行政で一番に取り組めることは社会資本整備で、水、道路、空港、港湾などの物流基盤。設楽ダムや牟呂用水、松原用水などは東三河地域をあげて取り組むべき課題。
- ・ もう一つは、東三河縦貫道の問題で、地域を縦につなげる基幹道路がなければ、東三河がバラバラになる危険がある。旧渥美町では、高速道路のインターまで 2 時間もかかり、嫁の来手がないという話もある。
- ・ モノづくりは、田原のトヨタ以外にも集積があり、農業もあって、産業構造のあり方の議論が必要。小さな豊根村の木質ペレットを活用するため、市独自の取組みを進めている。キャベツにしても、田原だけでなく、設楽や東栄でも栽培すれば通年化できる。
- ・ 人材育成は、技科大や愛大、創造大の卒業生が名古屋や東京や出て行ってしまっているので、この地域で働く場をつくる必要がある。
- ・ この協議会は、行政や経済界等で構成されているが、あくまで主役は市民、町民、村民であることが重要。

## ○豊川市長

- ・ 農業については、担い手不足や有害鳥獣被害が深刻な問題。観光は、たいへん重要で、特に歴史や風光明媚などの面で全国から観光客を呼び込むことが必要。来年、B-1 グランプリを開催する予定で、門前もたいへん賑わってきており、東三河地域全体で受け止めてほしい。
- ・ 医療については、医師、看護師の不足が深刻。市民病院は来年 5 月に 101 床を増床するが、看護師の確保が慢性的な課題なので、宝陵高校の看護学科の定員増を要望中。
- ・ 防災については、三河港の防災対策が課題で、企業誘致にもかかわる問題。

## ○蒲郡市長

- ・ 先日の市長会で、知事には東三河の発展なくして愛知の発展はないと力強い発言をいただいた。10 年後の東三河のビジョンということだが、スピード感を持ってドンドンやるのが大切。東三河のことは東三河で決めるということなので、財源、権限を持って、東三河県庁ができてこんなに変わったと言われるようにすべき。

## ○新城市長

- ・ 地域県庁や専任副知事は、初の試み。中京都構想などの大都市制度の議論の中で、共存、共生、共栄できる地域の新しい文化、価値観をつくっていくことが重要。そのため、次々と斬新なプロジェクトを打ち出していく必要がある。
- ・ 防災、減災については、地震対策や三河港の多重防御を提案したい。また、自然エネルギーについては、低炭素社会、循環型社会をめざす新エネルギーの活用が課題。森林

再生に向けては、東三河は奥三河や西三河、天竜、遠州ともつながっているため、民間の力を活かした森林再生のための拠点において、道路で地域をつなぐことが必要。

#### ○田原市長

- ・ 東三河県庁には各地から期待の声が寄せられている。知事が言うようにポテンシャルを活かしきれていない。通常、ビジョンづくりはスピード感がないものだが、アグレッシブに取り組んでいく必要がある。
- ・ 農業は、日本の農業のモデルとなる地域であり、若者の担い手不足については、農商工連携や6次産業化、農業の海外戦略などの取組みが重要。県で取り組んでいる知的財産の問題も関わってくる。

#### ○設楽町長

- ・ 北設楽地域の過疎問題については、東三河全体で取り上げて、解決へ向かうよう期待したい。水行政の推進については、地域全体の農業、商業、工業の発展に必要で、特に、設楽ダムによる水の安定確保は、最重要課題。
- ・ 三河材の活用と林業については、木材価格が低迷し、非常に厳しい状況。山村の荒廃は、山崩れや水の減少にもつながる。奥三河の山林全体が瀕死の状態なので、これを好転させる画期的な施策が必要。東三河全体で取り組むことが必要。提案として、日本古来の家屋を普及し、三河材を活用した住宅建材を推奨してはどうか。建築材としての活用やブランド化のためには、補助制度などのサポート強化が必要。また、森林組合も需要の掘り起こしに取り組む必要がある。発電やバイオマスの検討が必要。

#### ○東栄町長

- ・ 三遠南信、新東名の整備により名古屋まで2時間30分から1時間30分、豊橋も20分短縮した。
- ・ 他県の例もあるが、山村、離島の振興のため、愛知県中山間離島振興条例を提案したい。今、過疎問題はすさまじい問題であり、地元援助や森林保護の観点から、県民の責務として、過疎地を守るということを宣言すべき。

#### ○豊根村長

- ・ 交通体系、三遠南信、新東名、東名、国道1号、23号など東西は整備が進んだが、南北道路の整備が課題。通勤、通学、医療など通える圏域づくり重要。
- ・ 医療については、三遠南信連携でクローズアップされたが、東は浜松、北は長野県に隣接しているので、地域医療の連携が不可欠。
- ・ 観光については、芝桜、茶臼山などに取り組んでいるが、圏域の中で連携していくことがベターで、システムづくりや商品化が必要。
- ・ 循環型社会に向けたペレットボイラーに取り組んでおり、山を守っていくため、是非、力を貸してほしい。

## ○岡田委員

- ・ これまで社会資本や1次、2次産業の話が多かったが、観光が連携のテーマに一番よいと思う。確たるデータはないが、東三河の年間170万人宿泊、2000万人の観光客の対し、伊勢志摩が195万人と930万人、高山が200万人と710万人、飛騨が339万人と1300万人というデータがある。東三河の観光については、稲荷寿司は分かるが、その他はそれぞれ勝手にやっている感じがする。「穂の国」を育てていくこと、ブランド化が重要。
- ・ そのためには、マーケティングがないのが問題。商品づくりのためには、山、街、海を加えて、その中でオンリーワンをめざすべき。参考資料の中の地域の目標に「生活の都」とあるが、是非、「交流」を入れてほしい。外から訪れ、住んでもらうということが重要。「都」というより自然豊かな山、海、街といった日本の原風景や新エネルギーなどの新しい産業をめざすべき。
- ・ 主要プロジェクトについては、来年はB級グルメの大会があるが、今年は、蒲郡の花フェスタを連携、協力のテーマにしてほしい。

## ○佐藤委員

- ・ 地域の教育については、幼稚園や小中高大、大学院の一貫性のある仕組みで地域と結びつける必要がある。県教育委員会や学長懇話会では、県全域の話になるので、具体性に限界があり、下位組織の必要性の議論もある。
- ・ 東三河の高大連携については、時習館高校が幹事となってスタートした東三河高大連携協議会という、年2回、県教委、市教委と私大も含めた検討体制がある。
- ・ 三遠南信サミットと教育サミットがあるが、役割が曖昧なので、大学フォーラムを立ち上げるという課題もある。
- ・ 東三河の振興と教育の関わりを考えていく必要があるが、大学の世界は、設置機関が異なる国立大、公立大、私立大3者がバラバラで、相互の交流、連携がほとんどないので、東三河地域ベースの教育連携が重要。
- ・ 参考資料にある廃校の利活用については、高校だけでなく、愛大の校舎も外部連携の活用を考えていくが、自治体合併後の遊休施設の活用が課題。
- ・ 県の計画、市町村の計画、商工会や愛大でも基本構想があるが、全体的な共有の場がないので、この協議会がそうした場になるとよい。そして、県が、それぞれの計画の進捗を確認する役割を担うとよい。
- ・ 将来に向けては、課題解決だけでなく、クリエイションのためのビジョン、例えば、観光、新しい居住環境など若い人に魅力を感じてもらえるか、交流、居住、定住を考えていくことが重要。
- ・ 県の交流居住センターの所長を務めているが、震災後、空き家を手放さない傾向が強まっており、過疎地に住みたい人のための対策が必要。

## ○田村委員

- ・ 東三河地域は愛知県の人口の1割で、自主独立ができていない。中京都構想や三遠南信の位置づけも重要だが、民間では「自立」がキーワードだ。これから10年で真の自立をめざしてほしい。奥三河は「ストップ・ザ・過疎」だ。10年間で英知を絞ってほしいし、過疎の全国大会でも検討してもらおうとよい。
- ・ 奥三河、東三河、三遠南信の観光も大事で、民俗伝統芸能、林業、救急医療に関してもできたら県主導で組織をつくり過疎問題の解決に取り組んでほしい。
- ・ 新都市の中心機能の強化に向けては、東三河1時間圏域の前に、奥三河が新城まで1時間で行けるよう、かつては飯田線の複線化や名鉄の乗り入れなどの提案があった。
- ・ 情報発信については、マスコミの三遠南信日より豊橋市内のホール等の催事やデパートの売出し情報などが一元化されるとよい。

## ○戸田委員

- ・ ビジョンについては、住民からのボトムアップが重要。東三河県庁は日本初なので、他のモデルになっていくべき。今、日本の人口は今の1億3千万人が頂点で、最も蓄えがある時期なので、これを未来につなげることを考えるべき。東三河県庁は、住民、経済界から提案を持ち込める場所になっていくことが重要。
- ・ 目標、キャッチフレーズとしては、「定住できる東三河」を提案したい。学生のアンケートでは、居住地の選択の際に、仕事場所として優先するのが男性23%、女性44%となっており、全国で定住の場所がなくなっている中で、女性が雇用の場を求めていることの現われ。東三河は、政令市と比較すると、都市力が弱い、若者が定着するためには憧れの場となる都市力が重要。
- ・ プロジェクトについては、人材育成に尽きると思う。雇用の全体デザインが重要で、国の緊急雇用対策はバラバラで将来につながない。
- ・ 三遠南信の南北の軸となる豊橋三ヶ日道が通らないと、200万人の都市圏ができない。

## ○藤井委員

- ・ 今、豊川は、稲荷寿司で、すごく盛り上がっており、田舎しかない食文化が重要。来年はB-1全国大会で50万人から70万人がやってくる。県では、お金がないので、観光まちづくりゼミをやっていて、これは参加者の自費負担で、観光ボランティアを育てている。
- ・ 観光はボランティアに支えられており、愛知は日本一の観光ボランティアをめざし、田舎のよさを打ち出していくべき。おもてなしの心で、豊川18万人だけでなく、この地域全体で元気なボランティアにより活性化できるよう勉強できる機会を提供してほしい。

### ○神野氏（吉川委員の代理）

- ・ 東三河のポテンシャルは高いと改めて思うが、住民の視点だけでなく、競争する地域社会、世界、日本の他の地域の視点、外からの視点で考える必要がある。マーケットの視点から、観光、工業、定住を考えてはどうか。
- ・ 10年間の最大活用、発展のためには「構想力」が大切。三遠南信と東三河、愛知県のどの視点で考えるか。国、県、市町村の許認可行政については、不合理を多々感じることもある。東三河を活かすため行政をシャッフルし、新たなプラットフォームをつくるべき。
- ・ 人、モノ、カネ、情報の戦略には、組織、施策、ルール、許認可をどうするか、時代に合っていないものをアップデートする仕組みが必要。また、税制などのインセンティブで民間活用を図ることが重要。
- ・ 東三河で住みたい、仕事したい、学びたいなどの必然性と魅力が必要。経済では世界中の企業が進出したくなるインフラ、人材、リターンが得られることが条件。
- ・ 雇用増は、歴史的に起業が担ってきたので、世界から起業家を持ってくる東三河をめざしてはどうか。
- ・ 高齢社会の中で、ここに来るポテンシャルはある。教育では、農業や林業の経営、学術、技術、ビジネスが学べ、卒業すると一人前になれるような学校をつくり、アジアから人を集めてはどうか。

### ○榊委員（欠席のため、事前に書面にて意見を提出）

- ・ 次頁「東三河ビジョン協議会への意見」参照

### ○小林議員

- ・ この地域に財源、権限がしっかり来るよう、県議会では地元議員 11 人は少数ではあるが、皆様の想いをしっかりと伝えたい。

### ○知事

- ・ 第 1 回がスタートし、今後は企画委員会などで活発に議論し、具体的なプロジェクトを仕立て、ポコポコと鍋から煮え立つような、竹の子がポコポコ生えてくるような東三河にしていきたい。

豊橋技術科学大学長 榊 佳之

○今後10年間の時代展望

1. 製造業の生産ラインの海外移転が進む
2. エネルギーの多様化が進む
3. TPP などにより農業の「国際化」が進む
4. 少子高齢化が大きく進む
5. アジアの経済発展、市場拡大が更に進む

○目指すべき方向（時代の変化へ「守り」ではなく「攻め」へ）

1. 地域の世界オンリーワン企業の技術研究開発力の一層の強化（高度先端技術集積地としての東三河の構築）
2. 地産地消型エネルギーシステム構築（への努力）
3. 農業の国際競争力の強化（「産業としての農業」への体制の整備、市場開拓、人材育成など）
4. 高齢者が活力を持って地域貢献できる社会システムの整備（高齢者が能力を活用できる職場や活動の場の拡充、交通システムの整備、医療介護体制の充実など）
5. アジアの人々を呼び込める観光ビジネスの確立（アジアのディベロッパーと組んで進める必要がある）
6. 災害に強い安全安心の地域作り

○技科大ができるいくつかの具体的な取り組み（例示）

1. 産学（官）が連携した「技術科学アカデミー（仮称）」の設立による地域の先端技術開発の強化・支援（サイエンスクリエイトにおくのが良い）
2. 本学の先端農業バイオリサーチセンターや、植物工場（サイエンスクリエイト）などを通じた農業の生産・品質管理などの高度化のための技術開発と人材育成（進行中）
3. 本学の人間・ロボット共生リサーチセンターと地域企業、医療機関の協力による新しい高齢者介護システムの開発（一部進行中）
4. 本学未来ビークルシティリサーチセンターと地域自治体等との連携による安全・安心の新交通システム体系の研究（一部進行中）
5. 本学の安全安心地域共創リサーチセンターによる地域防災・企業防災へのプラン（BCP）作り、人材育成への協力（一部進行中）
6. 本学と関係の深いアジアの大学と連携した地域の求めるグローバル人材の育成

○全体をまとめる元気の出るキャッチコピーやロゴマークを作る必要がある